



アジア インドネシア



チタリック川流域 保全林造成事業

住民参加型の農林地保全により、流域の保全と経済開発に貢献

【外部評価者】

Value Frontier 株式会社 石森 康一郎

レーティング

有効性・インパクト	a	総合評価 B
妥当性	a	
効率性	b	
持続性	b	

本事業の目的

西ジャワ州のバンドン県およびスメダン県をまたぐチタリック川流域(33,388ヘクタール)において、農林地保全や溪流・溪岸保全等を行うことにより、土砂流出の防止および農業生産性の向上をはかり、もって流域の保全および経済開発に貢献する。

借款契約概要

- 承諾額／実行額：
41億2800万円 / 39億6000万円
- 借款契約調印：1995年12月
- 借款契約条件：金利2.3%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイト
- 貸付完了：2006年12月
- 実施機関名：内務省地域開発総局

本事業実施による効果(有効性・インパクト)

チタリック川流域12支流の年間土砂流出量および土砂流出抑止率の当初計画は、それぞれ約120万トン、81%であったのに対し、2007年実績はそれぞれ約197万トン、69%となっており、それぞれ当初計画の85%以上を達成している。

本事業実施中の2005年に60ミリの降雨量があった際に発生した洪水は、2800ヘクタールもの被害面積をもたらしていたが、本事業実施後の2007年に60ミリの降雨量があった際に発生した洪水は、15ヘクタールの被害面積をもたらしたにすぎず、洪水被害面積が大幅に縮小している。また、チタリック川流域在住約30万世帯の内の120世帯を対象に実施した経済調査によると、本事業実施後の1世帯平均農業収入は、本事業実施前の約77万ルピアから約150万ルピア(インフレ調整価格)へとほぼ倍増していることがわかった。

本事業の実施により概ね計画どおりの効果発現が見られ、有効性は高い。

妥当性

西ジャワ州は、民生の安定および農業の振興をはかるため、土砂流出・洪水防止のための流域保全対策に高い優先度を置いており、本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、開発ニーズ、開発政策と十分に合致していることから、事業実施の妥当性は高い。

効率性

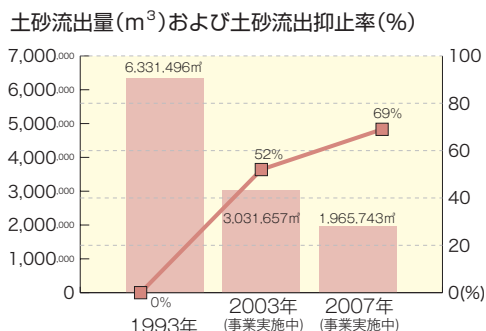
本事業は、期間については計画を大幅に上回ったものの(計画比170%)、事業費が計画を下回ったため(計画比82%)、効率性についての評価は中程度と判断される。

今後の展望(持続性)

本事業は、溪流・溪岸施設や道路・灌漑施設の維持管理および水量観測機の扱い等について問題があるため、持続性は中程度と評価される。

● 結論と教訓・提言 ●

以上より、本事業の評価は高いといえる。提言として、村落維持管理委員会(KKLD)に対する溪流・溪岸施設の維持管理にかかるキャパシティ・ビルディングの実施、バンドン県およびスメダン県における道路・灌漑施設の維持管理についての十分な予算配布、ならびに水量観測機の修復および同機器のチタルム森林保全サブセンターへの移管が挙げられる。



[出所]事業化調査および実施機関

※ 本件を含むすべての事後評価報告書は、JICAウェブサイトの「事業評価→事後段階の評価(事後評価・事後モニタリング)」からご覧いただけます。(URL:<http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/after.html>)